

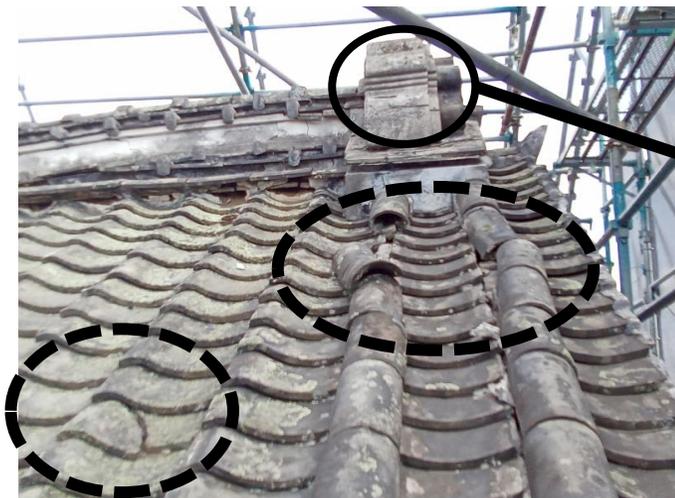
国登録有形文化財秋元家住宅土蔵保存修復工事見学会

令和6年10月26日（土）

屋根瓦修理前の状況



屋根の中央が凹んでいる。



瓦がずれたり、割れている。



影盛が割れて、雨漏りの原因に。



復元できるように番号をつけます。



1枚ずつ丁寧に取り外していきます。

文化財の修理は、修理前と修理後の状況が同じであることが基本です。
このため、解体をする際にも、建物がどのような構造であったかを調べながら進めていきます。

屋根瓦解体



棟は、瓦と土が交互に積まれていた。



影盛は瓦と漆喰でつくられていた。



瓦の下には、土が積まれていたが、劣化でブロック状になっていた。



土居塗という漆喰の層。ひび割れと陥没が確認でき、瓦がずれた原因に。



土居塗の下は、土の層。土を除去すると杉皮をおさえる竹を確認。これも劣化が進む。



杉皮の層。土を除去すると乾燥が進み、どんどん劣化が進んでしまった。



すべてを除去し確認できた野地板（のじいた）。板の一部も腐朽していた。

屋根瓦の復元



腐朽していた野地板を新しい材と交換する。



耐震性を考慮し、土葺きから板葺きに変更する。厚みは同じにして復元。



屋根の形状は元と同じにしている。新しい木材には、修理年がわかる焼印した。



地震を考慮し、瓦を釘止めするための板材を用意した。



瓦の8割は新しいものに。色の違いで新旧の瓦がわかります。



北側の鬼瓦は新しいものに復元。鬼瓦・影盛とも以前と同じ形に復元する。

壁の修理（解体作業）



修理前。1階部分はトタンで壁を押さえている状態。白の塗装も一部剥げている。当初計画では、トタンを外して、壁の塗り替えの予定であった。



鉢巻の壁を外すと、板材を確認。過去の修理で土壁ではなく、板材で壁厚を確保していたことがわかった。



2階部分の壁を外すと、板材を確認。鉢巻と同じで、土壁ではなく、板材で壁厚を確保していたことがわかった。



解体の工程



モルタル壁



モルタル壁を除去し、中塗り層を確認



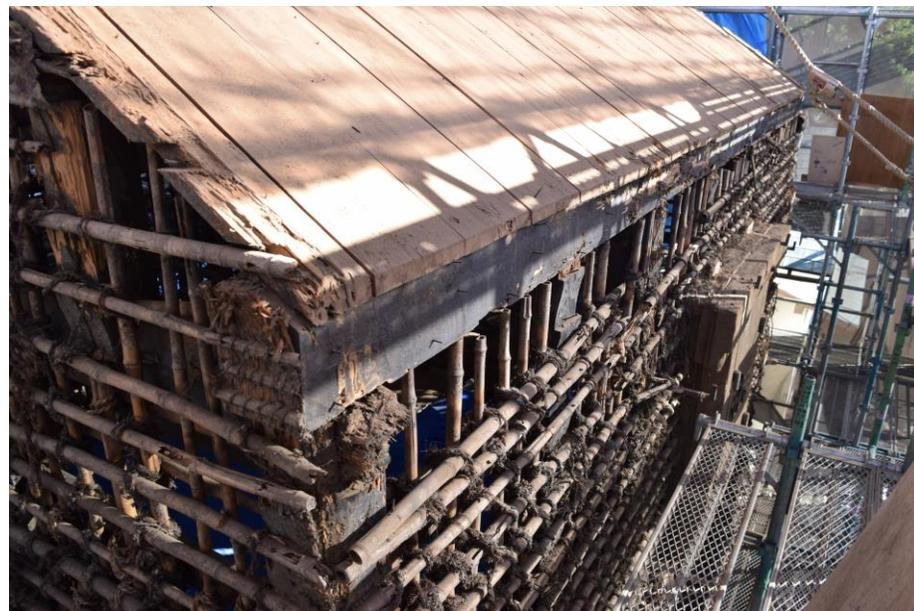
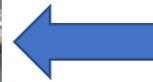
壁の劣化が激しいため除去



漆喰で塗られた大津締め層
随所にひび割れや剥がれが確認できる。



30cmの土壁はすべて取り外され、柱だけの状態になった。



荒壁土の層
土が劣化しており、ぼそぼその状態であった。



荒壁土の層
土が劣化しており、ぼそぼその状態であった。

柱の補修



土壁を取り除いたところ、梁の一部が腐朽していることがわかりました。



梁の交換するため、屋根板と大きい梁をすべて取り外しました。



梁を新しい材に取り替えました。



大きな梁も腐朽していることがわかり、急遽、点線部分を交換することになりました。

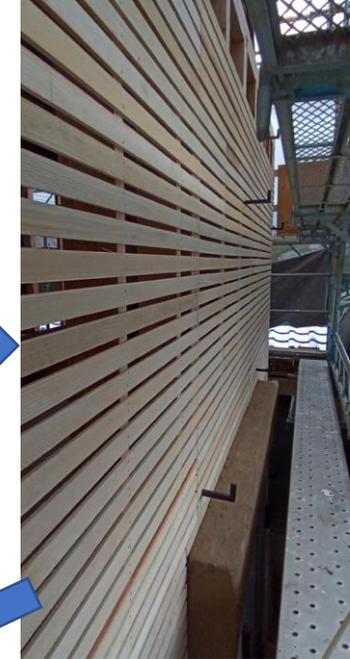


梁を新しい材に取り替えました。もちろん釘は使っていません。



梁先の譜去っていた部分を新しい材に取り替えました。

壁の復元



既存の柱の外側に新しい柱を立てます。土壁の厚さ（30cmのうち20cm分）の大半を柱にすることにしました。

土が張り付くように横板を設置



以前と同じく、荒縄を貼り付け、その上から土を塗って行きます。



壁の内側の様子



土を何度も塗り重ねていきます。



最後に漆喰を塗り完成です。

扉の修復・ツブの復元



扉の漆喰部分をはがし、土も傷んでいる部分をはがし、修理することになりました。

現在、扉の復元作業を進めています。デリケートな作業のため、ベテランの職人さんが専従しています。



土蔵でみられる、折釘とツブ。解体作業では、その構造も調査しました。

確認した構造をもとに、折釘は錆止めの塗装をして、土と漆喰で仕上げています。